

(別添 4)

【名護市】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

児童生徒が情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、他者と協働し、新たな価値を創造するために必要な情報活用能力を育成する。そのために 1 人 1 台端末をはじめとする ICT 環境を積極的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。その際に、一斉授業か個別学習か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった「二項対立」ではなく、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていく学びを推進する。

2. GIGA 第 1 期の総括

令和 2 年度に小学校 13 校、中学校 8 校の合計 6,884 台 (Chromebook) の 1 人 1 台端末と各学校の高速大容量ネットワークを整備している。令和 3 年度に本格稼働した際、帯域圧迫がみられたことから、ローカルブレイクアウトを実施し、帯域圧迫の解消を行った。

ICT 支援員を 4.2 校に 1 人の割合で任用し、教職員の研修及びサポート、機器類の不具合対応を実施した。サポートは操作支援や授業準備、校内研修、小グループ研修での対応など、教職員のニーズに対応できるように務めた。また、名護市教育員会の研修会の位置づけとして年間をとおして、研修会を実施して端末活用の促進に努めた。

しかしながら、端末の持ち帰りや授業での活用等に学校間・学年間・学級間格差がみられるとともに、児童生徒の端末の適切な取り扱いや情報モラル教育に課題が見られた。

そこで、教員の ICT 活用力のさらなる向上を目指し、全ての学校が授業や校務において、利用格差を是正し、積極的に ICT の活用を図ることができるよう、これまでの研修等の取組に加え、これにより教員が ICT 活用について、協働的に対話を行うとともに、互いの教育実践から ICT を活用した指導法や校務 DX の改善について学び合う機会をつくることにより、課題解決につなげていきたい。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

1 人 1 台端末の利用により「個別最適な学び」の充実を図る。その際に、ICT を活用し学習履歴や生徒指導上のデータを利活用することで、一人ひとりの児童生徒の特性や学習進度に応じた指導の個別化を進めるとともに、一人ひとりの児童生徒の興味・関心や意欲に応じた学習活動の機会を提供する学習の個性化を目指していくことが重要である。

また、1 人 1 台端末の利用により、個々の家庭状況や学校教育になじめない児童生徒に対する学びの機会の保障や地理的条件に影響されない教育の機会均等を確保することができる。

汎用型クラウドサービスを活用しデータを共有することで、友達の進捗を手がかりに学びを深めたり、共同編集機能を活用して協働する他者の意見を尊重しながら自分の意見をまとめる力を身につけさせることができる。児童生徒が端末の適切な使い方を判断できるよう、ネットモラル教育を更に充実させることで、端末の安心・安全な活用ができるとともに、端末の持ち帰りや授業での活用促進につなげていきたい。

1人1台端末の利用を推進するためには、教職員のICTリテラシーのスキルアップが必須である。ICT研修の充実を図ることにより学校間・学級間・教職員間の利用格差の是正に努めたい。

このような学習を進めていくために、1人1台端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する。